

◎ロキソニン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ロキソプロフェンナトリウム水和物 loxoprofen sodium hydrate 【分類】 鎮痛・抗炎症剤

【単位】 ◎60mg/錠

【常用量】 ■消炎・鎮痛・抜歯後：1回60mg, 1日3回 [頓服は1回60~120mg] ■急性上気道炎の解熱・鎮痛：1回60mg 頓服 [原則1日2回まで, 180mg/日を限度]

【用法】 頓服もしくは食後■空腹時の投与を避けるのが望ましい

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要はないが、腎障害悪化のおそれがあるためできるだけ投与しない (5) 【その他の報告】 重篤な腎障害のある患者には投与禁忌 [急性腎不全, ネフローゼ症候群等の副作用を発現することがある] (1) 腎障害又はその既往歴のある患者には慎重投与 [浮腫, 蛋白尿, 血清クレアチニン上昇, 高カリウム血症等の副作用がおこることがある] (1)

【特徴】 基礎実験での鎮痛作用はインドメタシンの20倍と強い鎮痛作用を特徴とする抗炎症剤。プロドラッグのため胃腸障害の副作用が比較的少なく、長期投与しやすい。

【主な副作用・毒性】 ショック, 溶血性貧血, SJS, 急性腎不全, 消化管出血, 黄疸, 喘息発作, 過敏症状, 胃腸障害, 眠気, 頭痛, 肝障害, ネフローゼ症候群, 浮腫, 心悸亢進, 間質性肺炎など

【吸収】 良好 (11) $ka=11.21/hr$ (1) trans-OH 体の $ka=3.56/hr$ (1)

【F】 初回通過効果によりほとんど代謝される (11)

【tmax】 未変化体 30min, 活性代謝物 trans-OH 体 50min (1)

【代謝】 主に肝で活性代謝物である trans-OH と不活性代謝物である cis-OH に代謝される (11) CYP の関与はない (1)

【排泄】 尿中回収率 50% [po, 8hr まで] (11) 尿中には未変化体 2.2%, trans-OH 2.2%, cis-OH 1.1%, 未変化体のグルクロン酸抱合体 21%, trans-OH のグルクロン酸抱合体 16%, cis-OH のグルクロン酸抱合体 7.9% 排泄 (11)

【t1/2】 1.25hr (1) 1.22hr (未変化体) 活性代謝物の trans-OH は 1.31hr (11)

【蛋白結合率】 99.7% (1) 未変化体は 97.7% [ほとんど Alb], 活性代謝物 trans-OH は 95.2% (11) trans-OH 体 92.8% (1)

【Vd】 7.6L/man, 活性代謝物の trans-OH は 47.4L/man (11)

【MW】 304.31 [水和物]

【透析性】 蛋白結合率が高いため透析によって除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1)

【TDMのポイント】 TDM の対象にならない 【O/W 係数】 低い (11) 0.82 [1-オクタノール/水系 (第2液, pH6.8)] (1) 【pKa】 4.2 (1)

【更新日】 20171130

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。